

位の低下現象が現れ始めた。現在もなお水位低下が続いていることから、温泉資源の衰退・枯渇化が懸念されている。

このようなことから、函館市水道局では、将来に向けた持続的な温泉資源の安定確保と適正利用に向けた対応策について、当所に調査研究を依頼し、平成15年度から4年間調査研究を実施した。

平成18年度は最終年次にあたり、今年度を実施した温泉源モニタリング調査結果、揚湯試験結果のほかに、これまでの調査結果を総合的にとりまとめ、湯川温泉地区の温泉資源量評価ならびに適正管理と適正利用についてとりまとめ、次のような指針を示した。

1) 揚湯量の削減

地元の理解と協力を得ながら削減年次計画と行動計画を早期に作成して、段階的に適正揚湯量へ向けた取組みを実施する。

2) 泉源の整備および監視・計測

利用実態の見直しによる再評価を行う。また揚湯量の削減の取組みには泉源設備や資源動向の監視体制の整備も不可欠でありこれらを同時並行的に進める。

3) 新たな揚湯および供給システムの検討と構築

利用状況に適用可能な供給方法と、それと連動した揚湯方法を検討し、全体のシステムの構築を図る。

4) 温泉資源の保護と適正利用に関する啓発活動

温泉資源の保護・管理に関しては地域全体で取り組むべき問題であり、今後は供給量に温泉利用形態（営業方法等）をあわせる意識改革が必要と思われる。

7. 依頼試験

7. 1 阿寒湖温泉国有鉱泉地調査

(担当)：高橋徹哉・柴田智郎

北海道財務局からの依頼により、釧路市阿寒町阿寒湖温泉において6月2日に調査を実施した。調査鉱泉地は2ヶ所で、調査項目は湧出量、泉温である。2ヶ所の調査結果はそれぞれ、湧出量は195 L/分および402 L/分、泉温は59.5℃および63.3℃であった。

7. 2 層雲峡温泉国有鉱泉地調査

(担当)：高橋徹哉・柴田智郎

北海道財務局からの依頼により、上川町層雲峡温泉において8月31日～9月1日の2日間に調査を実施した。調査鉱泉地は17ヶ所で、調査項目は湧出量、泉温である。調査の結果、全湧出量は1,255 L/分、平均泉温は75.5℃であった。

7. 3 日高沖海底堆積物調査

(担当)：嵯峨山 積

社団法人北海道栽培漁業振興公社の依頼により、平成18年8月の大雨により沙流川から海域にもたらされた泥や砂の状況を把握するために、同河川沖の11地点で海底堆積物を採取し、珪藻分析を行った。その結果、河川から由来したと考えられる淡水生種+絶滅種の多産は認められず、沙流川からは大量な泥や砂の供給はなかったと推定した。